

末次竹二郎 としまつみ たけしろう 政治家。慶應（二十）二月一日薩摩國生れ、昭和十
年九月八日歿（二八六―一九三三）。洋畫家末次正精の長男。幼名竹蕉。明
治二十二年帝國大學法科入學政治學科卒。大藏省を経て内務省に入り、
徳島縣・秋田縣知事、内務次官、鐵道院總裁等々を歴任。大正四年衆議
院議員（當選八回）。十二年政友本黨、昭和二年より憲民政黨はじこを結
成のち政友會に復歸も黨議に及ばず除名。内相、鐵道相、逓信相を務
めた。

著書に『歐米小感』（國府種徳編、明治四十二年四月）、『十日加島虎吉
刊』（『都市膨脹に伴ふ諸問題』（明治四十四年七月八日）内務省地方
局）、『地方自治及振興策』（勝屋英造編、明治四十五年二月八日實
業之日本社）、『憲民政黨の本領』（濱口雄幸・若槻禮次郎合著、
昭和二年八月十八日）吾郎編刊、と憲民政黨遊説部）、『各政黨大
演説集』（他七名合著、大阪毎日新聞社編、昭和二年一月十一日）大阪
毎日新聞社・東京毎日新聞社「毎日叢書」）、『政子爵遊説策一翁追
悼講演録』（他八名合著、鈴木誠治編、協調會）等。また、共著八千
總著『大西郷と末次』（昭和六年二月七日）三友堂書店・東京出版社）、
安藤英男著『幻の總理大臣―末次竹二郎の足跡』（昭和五十八年六月
二十五日學生書林）がある。

